

みんなのでつくる福井の未来

県は、長期ビジョンに掲げる福井県の将来像を実現するため、各分野で活躍する専門人材と協働して政策を作り上げる新しい行政スタイルへの転換を図っています。また、徹底現場主義のもと、県民との対話の場を増やし、寄せられた意見を積極的に県政に反映しています。

ふくい政策デザイン

時代を反映した新しい政策を生み出すためには、利用者目線で物事の本質を見極め、自由な発想で解決のアイデアを示す「デザイン思考」が重要です。県は、これまで産業界で活用してきた「デザイン」という視点を政策分野にも取り入れるため、デザイナーやクリエイターのアイデアを政策に反映する「ふくい政策デザイン」を、令和元年度から開始しました。これまでに交通安全の分野や福祉分野などでデザインの発想をもとに新たなプロジェクトが生まれ、展開されています。

こうした行政とデザイナーの連携についても深く関わってきたTSUGI(ツギ)代表の南山直広さんは、「そもそもデザインとは『計画する・設計する』



「行政がデザインに注目してくれることは喜ばしいし、我々デザイナーもさらに頑張っていきたい」と南山さん

を直接聞きたいという強い思いで県内各地に数日間滞在する「微住」を実践し、地域の方々と対話を重ねています。これらの取り組みを通し、県内外の多くの人々の力を借りながら、チームふくいで福井の未来をつくっていきます。

- ◎ 未来戦略課
①077612010225 ②010623
- ◎ 広報広聴課
①077612010221 ②010622



未来につなげる福井県デザインシンポジウム (R3.12.10開催)



杉本知事による現場でトーク(おおい町)



未来戦略アドバイザー (第3期)委嘱式 (中央:県DX推進監 左右:未来戦略アドバイザー)



クリエイターとの政策検討ワークショップ

副業・兼業による専門人材の活用

地方の状況が多様化する昨今、課題解決や政策立案には外の力、都市部で活躍している専門人材の知見も重要です。県は令和元年度に都道府県で初めて、地方の課題解決に活躍してもらおう、副業・兼業限定の人材「未来戦略アドバイザー」を募集しました。

初年度は長期ビジョンの広報を担う

人材を選任し、県のビジョンを県民にわかりやすく伝えるためのビジュアル化や、SNSによる情報発信の立案などで成果を上げました。令和2年度は、データ分析のスキルをもつ専門家2名を委嘱。客観的な数字に基づいた情報(エビデンス)で、現在も政策立案に力を発揮していただいています。

今年度はさらに、DX(デジタルトランスフォーメーション)の専門人材2名を選定。県民目線のDX推進に向け

現場でトーク

県民の声を新たな政策に反映していくため、県では職員が自治会や公民館、企業などに出向いて生の声を聞く「現場でトーク」を実施。昨年は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでも開催しました。杉本知事も現場の声

政策デザインから生まれた政策事例

交通安全家族!

「光ってこそ、人生。」をキャッチコピーに、反射材の普及と交通ルールやマナーを守る大切さを訴えています。マネキンを使って、とある福井の家族を視覚化し、反射材の効果と家庭で交通安全について考えてもらうことを狙っています。ラジオドラマCMで高齢者が直接耳にする機会を増やしたほか、ショッピングセンターなどで実際にマネキンを設置した巡回展を実施しています。



(詳しくはこちら)



フクシオン

障がい者の「幸せ就労」実現のため生まれたプロジェクト。タイトルは「福祉にアクション」の想いからです。障がい者の作った商品そのものに価値を見出し、工賃向上を図るため、商品の開発力強化や、民間企業との仕事マッチングサイトの開設((社福)福井県セルフ運営)などを行っており、今後は民間企業との連携や社会の認知度アップの方法もデザインしていきます。

(詳しくはこちら)



みなさんの声 お聞かせください

知事への提案便



現場でトーク



知事メッセージ みなさんと一緒に

福井県の目指す将来像実現のため、協働による県民主役の県政を進めます。

福井県長期ビジョンで描いた将来像を実現するためには県民・企業・団体・市町が力を合わせ、一丸となって行動することが重要です。

これからも県民のみなさんの声を県政に反映させながら、各主体と協働し、新たな政策を進めていきます。



知事 杉本 達治